



青年部150名が 局前総決起集会



9.27 10.11 三里塚へ! 四支部青軸に決起!

9月27日17時45分、千葉鉄局前は検修4支部青年部の怒りの総決起で騒然となった。仕事を終えた幕張・津田沼・佐倉・木更津の青年部が検修の仲間を中心に一五〇名結集し、全支部青年部の代表と共に「合理化粉砕!!」「10・11三里塚決起!!」は、千鉄当局に迫り、彼らは玄関のシャッターを降ろし、窓の中から心配そうに鈴なりで注目し、白腕をさしむけてきた。

次から次へと決意表明や報告が続き、路上や千葉駅ホーム上の多くの労働者にも、臨調攻撃の反動性を訴え、革マル反動分子の悪らつな敵対をあげ、反合・三里塚への総決起の決意を訴え、大きな共感をよび起していった。集会後のデモも、久びさに思いつきりの戦闘性をあふれさせたものとしてかちとることができた。

今後いついかなる弾圧が襲うかもしれない、その時のためにも青年部が一丸となって先頭に立つためにも今から行動の訓練・デモ・スクラムの練習もしておこう。もっとも真剣にやろうという気持をもった。

怒り充滿、やる気充分!

集会は木更津支部青年部副部長の外山君と幕張支部青年部副部長の伊藤君が担当。全員がヘルメットにゼッケンのやる気充分の姿で集会に集中している。

主催者を代表して幕張支部石幡青年部長が力強く「合理化粉砕、反動鈴木内閣打倒のためにも、10・11三里塚に根こそぎ立ちあがろう」と訴え、全員が「そうだ!!」「イギナシ!!」の声で応える。

来賓には、関川委員長、田中青年部長、斎藤常男検査検修分科会長、そしてすでに決戦に突入して連日奮闘している多忙の中三里塚現地からかけつけてくれた北原事務局長の方々よりの挨拶・決意・激励をうけた。「おれたちももっと頑張らなくっちゃ」

との気持がわき上ってきた。特に、北原事務局長は悪らつ愚劣なデマ宣伝で反対同盟の破壊を策している革マルの敵対に対し、燃え上る怒りをこめ、きっぱりと「全人民の敵!! 革マル打倒、10・11総決起で反動攻撃を断とう」と心から訴えられ、全員が「イギナシ!!」「ガンバルゾ!!」と熱い拍手で応えた。

「3つの課題」掲げて、総決起する!

- ① 集会の盛り上げる中、佐倉支部佐藤副青年部長が基調報告を提起した。「基調」の骨子は、
- ② 検修大合理化の内容とその粉砕の闘いの方向、裏切り者!! 当局の先兵!! 動労「本部」革マルを打倒一掃し、全国の国鉄労働者の総決起をつくらう、
- ③ 10・11三里塚への総決起で、労農連帯を圧倒的強化し、その力で三里塚二期決戦と固く結合した臨調攻撃粉砕―国鉄決戦を徹底的に闘おう、

の3点が鮮明に示され、参加者一人一人がこの3つの課題を自分たちの課題としてうけとめ、頑張るところを誓った。

みんなで成功させた 9・27集会

稿 幕張支部青
投 年部(A)

この集会を成功させるため、4支部青年部は数回にわたり準備委員会と打ち合わせをつみ重ね、自前の集会として、みんなで苦勞して成功させてきた。今日の攻撃はまだまだかつてないすさまじいものがある以上、組合員一人一人が自覚して行動に立たねば、職場一つ守れない情勢である。特に青年部の立ち上りは決定的に重要だといえるし、この間の動労千葉の歴史を見ても青年部の活発化に勝負もかけられているといっても過言でない。こうした観点から27日の総決起がかちとられ、成功することの中から全員自信と確信を深めることができた。

パスは取り上げる!!「仲裁」は実施しない!! 合理化はどしどしやる!!「現協」は廃止する!!「こん

黙っているか
られるか
//
反撃は
始まった。
敵の必
死の攻撃
にうちか
つたため
は半端な
態度は通
用しない。
真剣に
一人一人
の決起を
つくらう。



検修の仲間を軸に創意工夫、汗水たらして築き上げてきた不屈の職場抵抗闘争に確信をもち更にみぎをかけよう。10・11三里塚総力動員は今後の我々の未来を決する。全力でたちあがろうではないか!! みんな、がんばろう!!